

2018/7/17

柏の景気情報（平成30年6月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成30年6月分）

○ 調査期間 : 平成30年6月28日 ~ 平成30年7月6日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	71	45.5%
建設	44	20	45.5%
製造	33	13	39.4%
卸・小売	43	23	53.5%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年6月の業況についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が11.3ポイント拡大した。

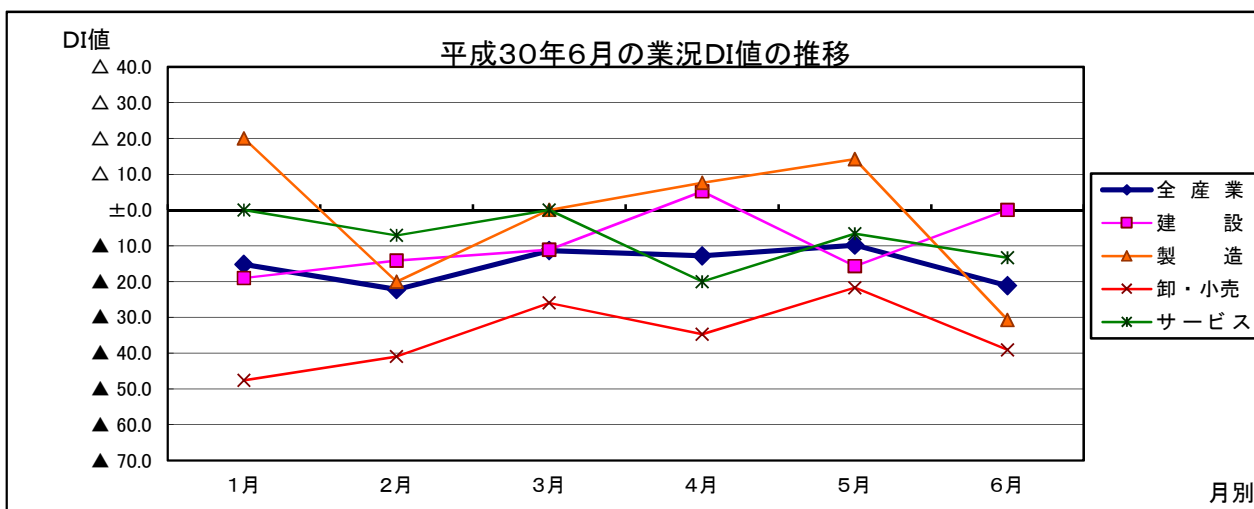
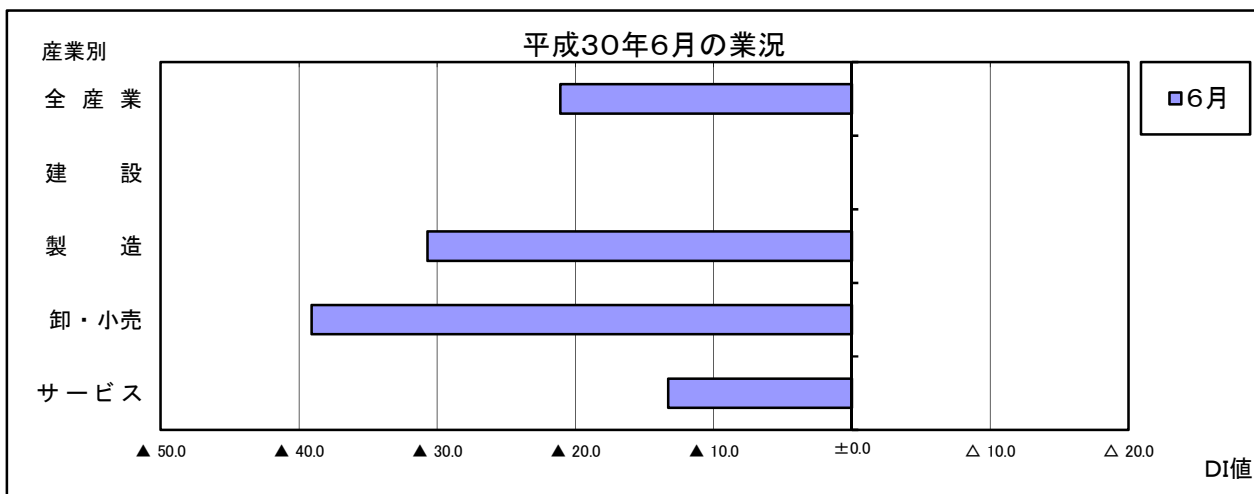
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲15.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲30.7(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.1(同▲21.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.3(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が8.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲13.3)、建設業▲5.0(同▲10.5)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲7.6(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲43.4(同▲17.3)である。

平成30年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲15.2	▲22.2	▲11.4	▲12.8	▲9.8	▲21.1	▲18.3(▲9.8)
建設	▲19.0	▲14.2	▲11.1	△5.2	▲15.7	±0.0	▲5.0(▲10.5)
製造	△20.0	▲20.0	±0.0	△7.6	△14.2	▲30.7	▲7.6(△7.1)
卸・小売	▲47.6	▲40.9	▲26.0	▲34.7	▲21.7	▲39.1	▲43.4(▲17.3)
サービス	±0.0	▲7.1	±0.0	▲20.0	▲6.6	▲13.3	▲6.6(▲13.3)



【平成30年6月の売上についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.4(前月水準△2.8)となり、マイナス幅が11.2ポイント拡大した。

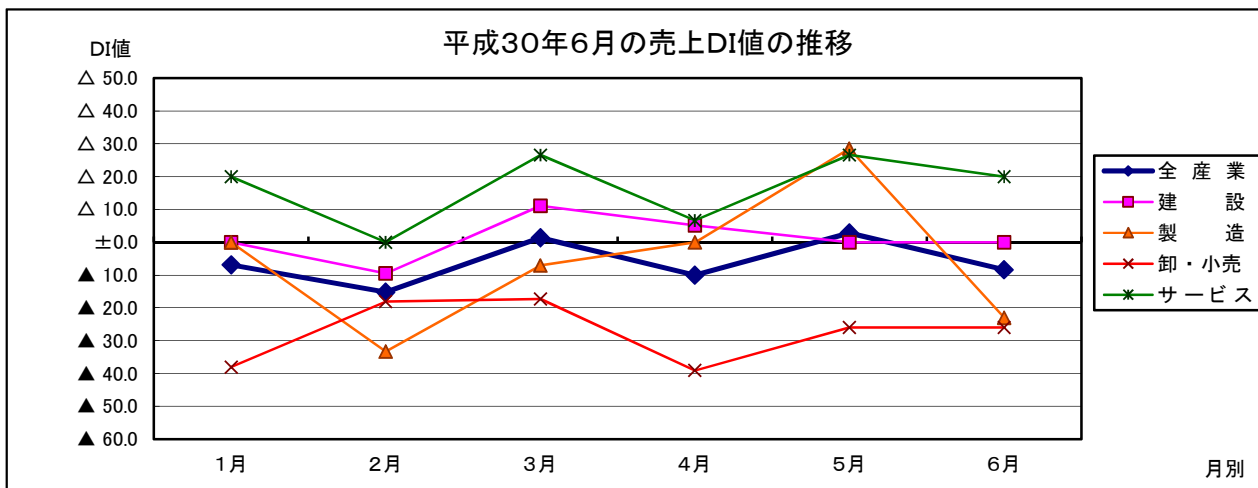
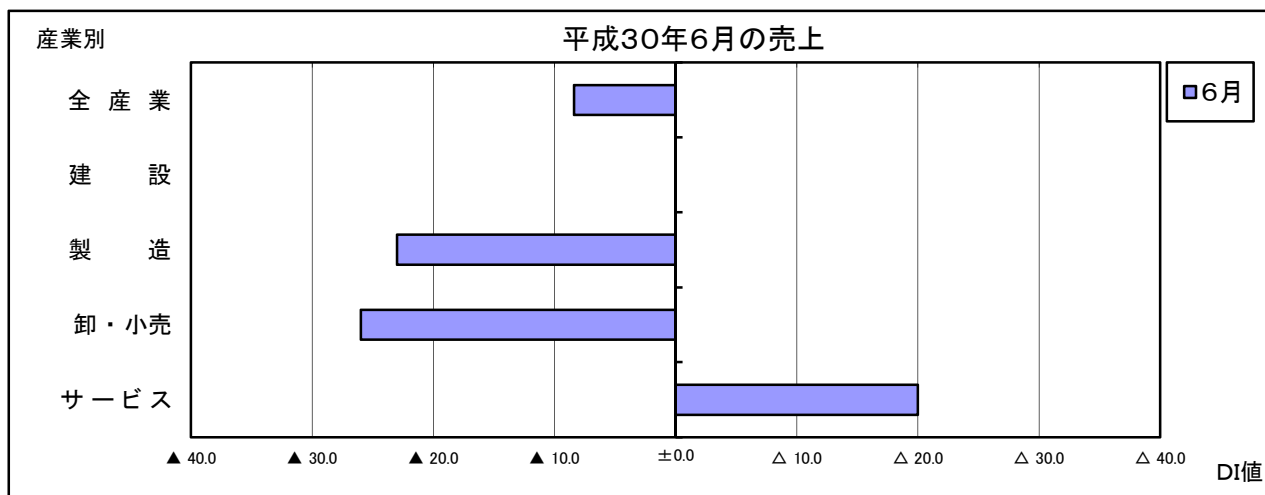
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、建設業±0.0(同±0.0)、卸小売業▲26.0(同▲26.0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△20.0(同△26.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲23.0(同△28.5)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.2(前月水準△1.4)となり、マイナス幅は12.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△20.0(同△5.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△7.6(同△14.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲13.3(同△13.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲47.8(同▲17.3)である。

平成30年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲6.9	▲15.2	△1.4	▲10.0	△2.8	▲8.4	▲11.2(△1.4)
建設	±0.0	▲9.5	△11.1	△5.2	±0.0	±0.0	△20.0(△5.2)
製造	±0.0	▲33.3	▲7.1	±0.0	△28.5	▲23.0	△7.6(△14.2)
卸・小売	▲38.0	▲18.1	▲17.3	▲39.1	▲26.0	▲26.0	▲47.8(▲17.3)
サービス	△20.0	±0.0	△26.6	△6.6	△26.6	△20.0	▲13.3(△13.3)



【平成30年6月の採算についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲11.2)となり、マイナス幅は5.7ポイント拡大した。

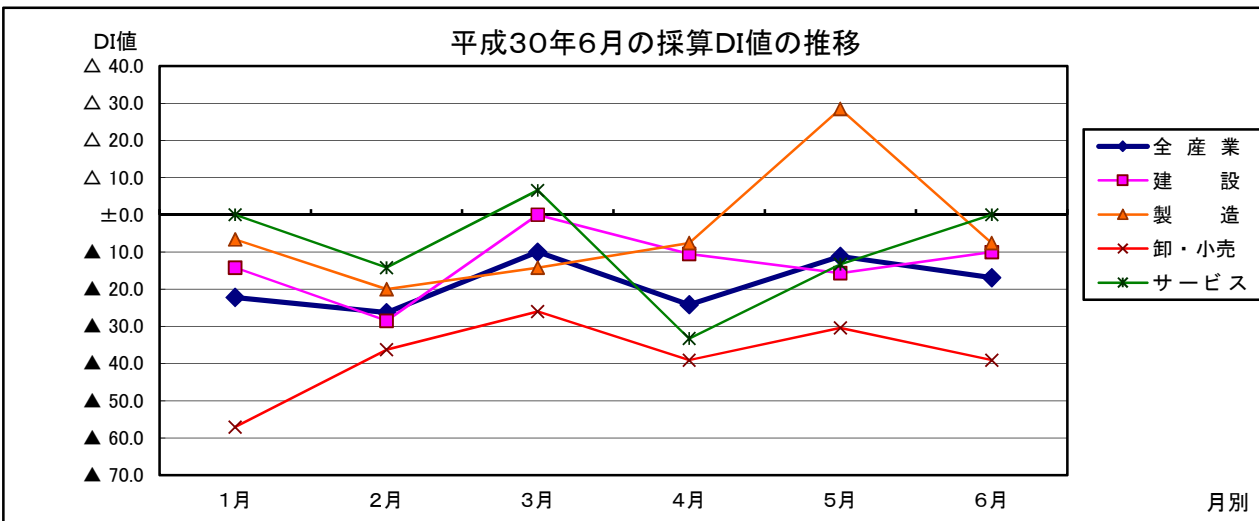
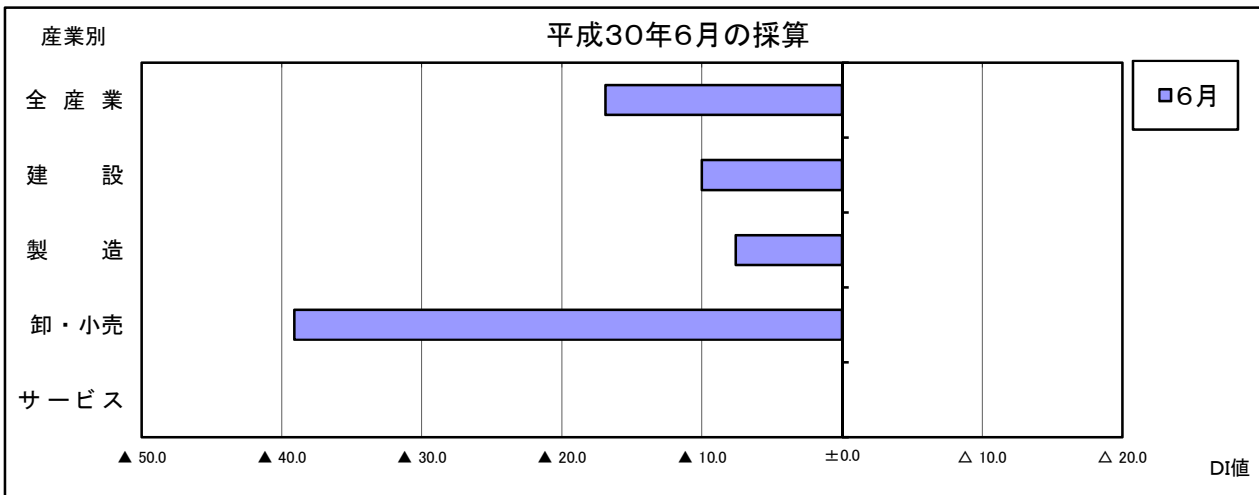
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲13.3)、建設業▲10.0(同▲15.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲7.6(同△28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲39.1(同▲30.4)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.7(前月水準▲11.2)であり、マイナス幅が8.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.6(同▲20.0)、建設業±0.0(同▲5.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲56.5(同▲21.7)である。

平成30年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲22.2	▲26.3	▲10.0	▲24.2	▲11.2	▲16.9	▲19.7(▲11.2)
建設	▲14.2	▲28.5	±0.0	▲10.5	▲15.7	▲10.0	±0.0(▲5.2)
製造	▲6.6	▲20.0	▲14.2	▲7.6	△28.5	▲7.6	±0.0(△7.1)
卸・小売	▲57.1	▲36.3	▲26.0	▲39.1	▲30.4	▲39.1	▲56.5(▲21.7)
サービス	±0.0	▲14.2	△6.6	▲33.3	▲13.3	±0.0	▲6.6(▲20.0)



【平成30年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲43.6(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が5.6ポイント拡大した。

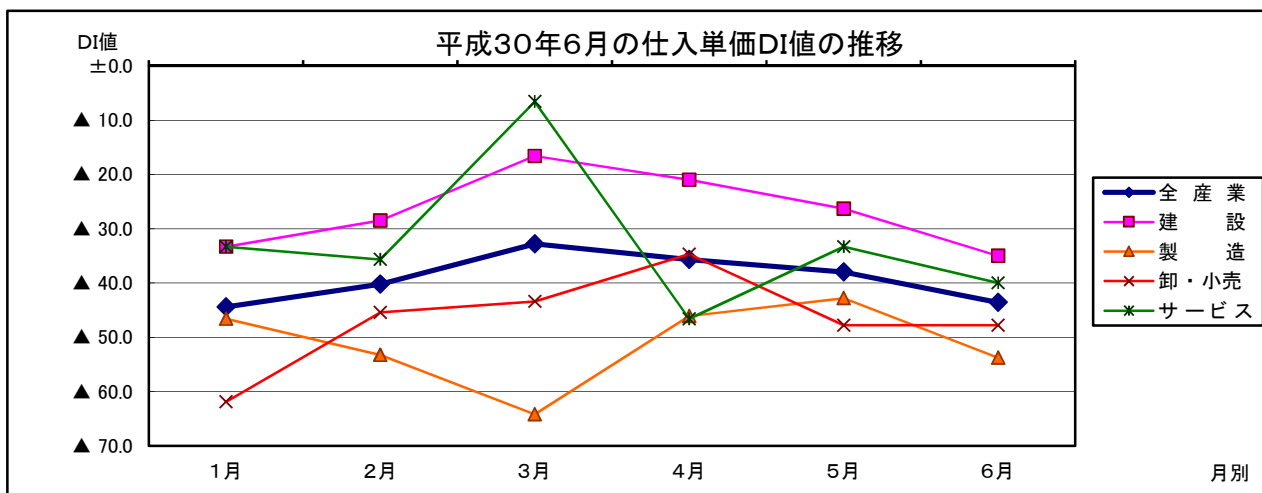
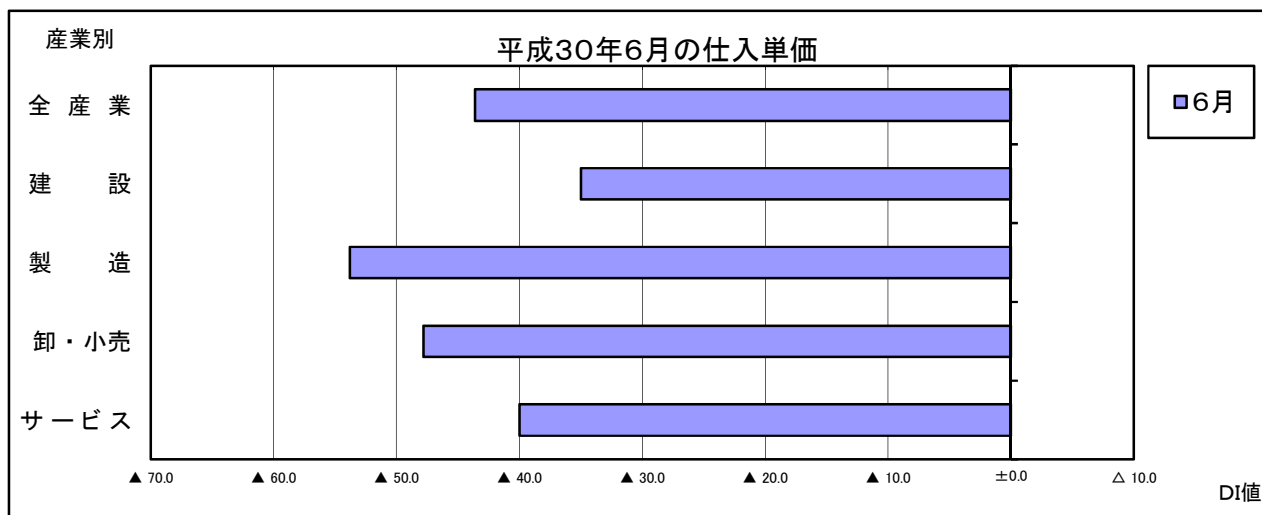
業種別では、前月水準と比べて、変らない業種は、卸小売業▲47.8(同▲47.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲53.8(同▲42.8)、建設業▲35.0(同▲26.3)、サービス業▲40.0(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.0(前月水準▲38.0)となり、マイナス幅が変わらない見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲43.4(同▲52.1)、サービス業▲26.6(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲26.3)、製造業▲38.4(同▲35.7)である。

平成30年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲44.4	▲40.2	▲32.8	▲35.7	▲38.0	▲43.6	▲38.0(▲38.0)
建設	▲33.3	▲28.5	▲16.6	▲21.0	▲26.3	▲35.0	▲40.0(▲26.3)
製造	▲46.6	▲53.3	▲64.2	▲46.1	▲42.8	▲53.8	▲38.4(▲35.7)
卸・小売	▲61.9	▲45.4	▲43.4	▲34.7	▲47.8	▲47.8	▲43.4(▲52.1)
サービス	▲33.3	▲35.7	▲6.6	▲46.6	▲33.3	▲40.0	▲26.6(▲33.3)



【平成30年6月の従業員についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△28.1(前月水準△21.1)となり、プラス幅が7.0ポイント拡大した。

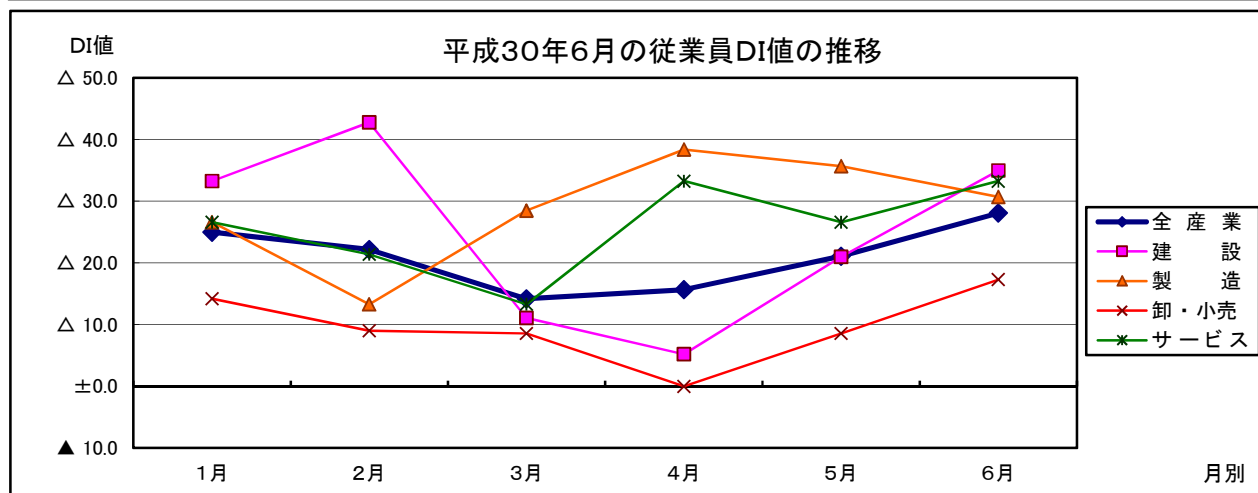
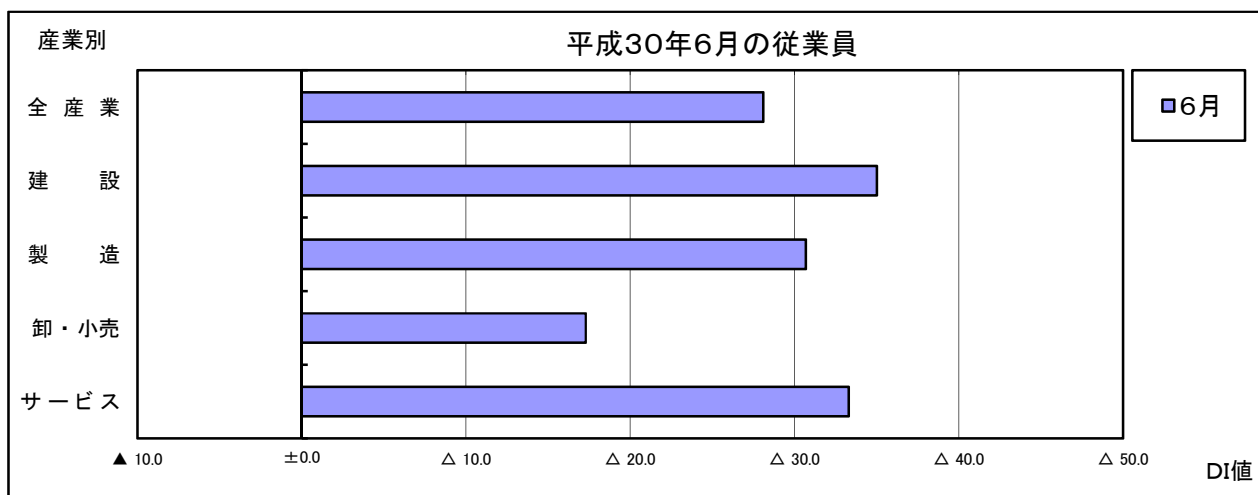
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△35.0(同△21.0)、卸小売業△17.3(同△8.6)、サービス業△33.3(同△26.6)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業△30.7(同△35.7)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、△22.5(前月水準△21.1)であり、プラス幅が1.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△35.0(同△15.7)である。変らない見通しの業種は、卸小売業△17.3(同△17.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同△26.6)、製造業△23.0(同△28.5)である。

平成30年6月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	△25.0	△22.2	△14.2	△15.7	△21.1	△28.1	△22.5(△21.1)
建設	△33.3	△42.8	△11.1	△5.2	△21.0	△35.0	△35.0(△15.7)
製造	△26.6	△13.3	△28.5	△38.4	△35.7	△30.7	△23.0(△28.5)
卸・小売	△14.2	△9.0	△8.6	±0.0	△8.6	△17.3	△17.3(△17.3)
サービス	△26.6	△21.4	△13.3	△33.3	△26.6	△33.3	△13.3(△26.6)



【平成30年6月の資金繰りについての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.2(前月水準▲7.0)となり、マイナス幅が2.8ポイント拡大した。

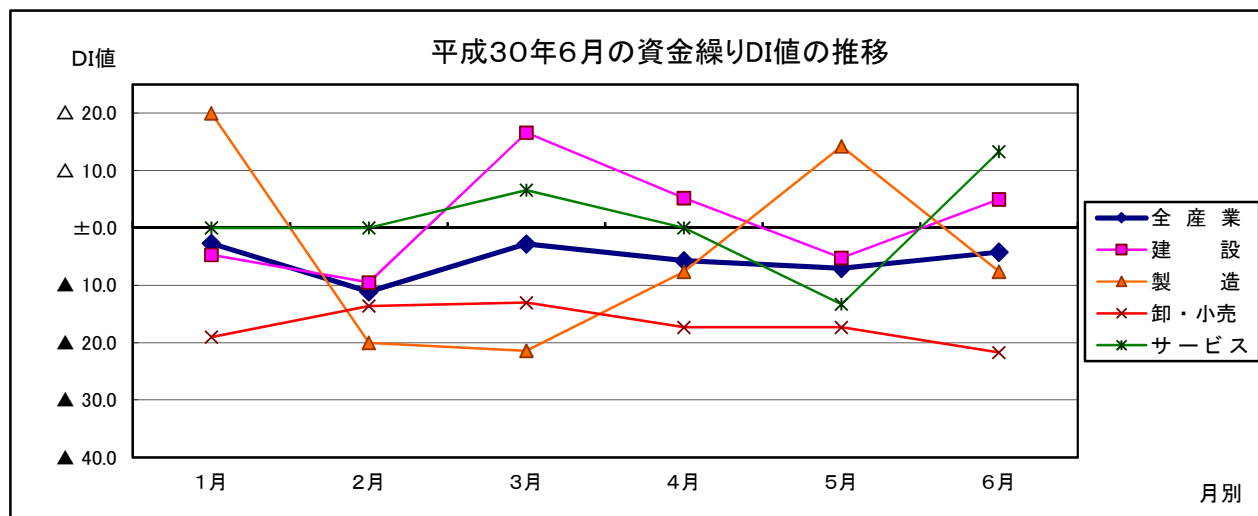
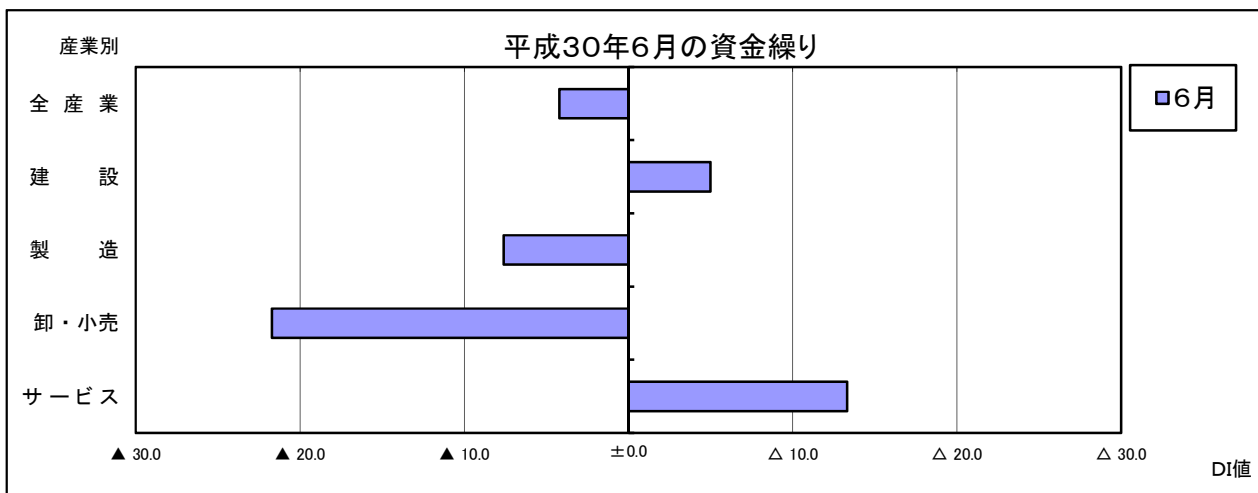
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、幅の大きい順に、サービス業△13.3(同▲13.3)、建設業△5.0(同▲5.2)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲7.6(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲21.7(同▲17.3)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.2(前月水準▲7.0)となり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業△15.0(同▲5.2)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同▲20.0)である。変わらない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲26.0(同▲4.3)である。

平成30年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲2.7	▲11.1	▲2.8	▲5.7	▲7.0	▲4.2	▲4.2(▲7.0)
建設	▲4.7	▲9.5	△16.6	△5.2	▲5.2	△5.0	△15.0(▲5.2)
製造	△20.0	▲20.0	▲21.4	▲7.6	△14.2	▲7.6	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲19.0	▲13.6	▲13.0	▲17.3	▲17.3	▲21.7	▲26.0(▲4.3)
サービス	±0.0	±0.0	△6.6	±0.0	▲13.3	△13.3	±0.0(▲20.0)



【平成30年6月の調査結果のポイント】

◀業況DIは再び悪化。先行きも懸念材料が多く悪化の見通し▶

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が11.3ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲15.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲30.7(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲39.1(同▲21.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「地震の不安が高まっているようで問い合わせが増加」(一般土木建築工事業)、「梅雨だった割には一般家庭の畳工事の受注が増加」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「中小企業にとって経済氷河期を乗り切るには、益々実を縮小せざる負えない現況」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「小売店は仕入控え気味の為、メーカーは在庫を抱えているよう。今後、夏物は値崩れすると思われる」(婦人・子供服小売業)、「柏駅周辺的大型店閉鎖のまま、書店も減っている。人の流れが中央から南に大きく変化。状況に合わせて店舗改装が効果あり。現状は人の流れに係わらず自社への要望に応じて悪化を防いでいる。人員減少もあるが、現在はこなしている」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「採用を進めるが応募が少なく欠員が慢性化。店舗老朽化が激しく投資が増大」(各種商品小売業)、「すべての果実が早く成熟しており、弊社商品の原料となる国産ブドウも、例年より開花が早かったが実になる数量が少なく、収穫量は前年ダウンになる。農家は収穫量が減っても、良いブドウを作れば単価が上がり生計維持できるが、ワイナリーは原料が上がったからといって、生産するワインを易々と値上げするわけにはいかない現状」(食料・飲料卸売業)、「天候が暑すぎ(不順)て来客が少ない。夕方に集中するので定時に閉店できない」(飲食物品小売業)、「バイト、パートがなかなか集まらない。販売員が不足」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「中小企業は原料コスト高・人件費高など受注多くも利益減多し。消費動向は高齢者はじめ若者も一般家庭も安物買いに走り、さほど伸びない。むしろインバウンド頼りの大手デパート・特殊店の伸びが増加。柏も外国人がいかに来るか早急対策必要。飲食店はオンリーワンの味・接客マナー・店内雰囲気などを一考しないと衰退化」(投資顧問)、「標準貨物自動車運送約款が改正され、運賃・積込料・取卸料・待機時間料等、具体的に規定されて適正運賃收受の道筋はできたものの、荷主等に浸透せず時間がかかっている状況」(一般貨物自動車運送業)、「割安感のある物件は早期に売却となっている。全体的には売り物件が空家・相続物件の案件が増えている。価格はやや値上り気味」(不動産管理業)、「そごうが閉店して2年経つが、無策で駅前の衰退などと言う輩が腹立たしい。他の商業ビルや商店は頑張っている」(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎受注減少・売上減少

各業種より、「リフォーム会社からの仕事が減少」(内装工事業)、「完全に仕事量が足りない。製造業の人手不足と言うのが信じられない位社内は落ち着いてしまっている」(印刷業)、「文具業界の売上減は、アマゾン・アスクル等の通販やネット販売に起因するところが多いが、実店舗では100円ショップの大型化とドラッグストアの多店舗が目立つ。八方塞がりからの打開はやさしくない」(書籍・文房具小売業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「売上高は変化ないが諸経費が上昇。先行きの見通しも悪く、直前になって受注が決まる」(電気工事業)、「副資材関連の値上げが続いていたが、来月からは主材料・運賃も10~20%の値上げとなる。当然、施工中現場は途中からの値上げとなるが、これから施工の受注現場に関しても単価の見直しはやらねばならず採算の厳しい状態が続く」(職別工事業)、「外注加工業者・購入品メーカーから部品価格の値上げ通達が相次いでおり、機械現価に大きなインパクトを与えている。中には理由が明確にされておらず便乗と疑いたくなるような値上げもあり」(機械・同部品製造業)、「夏季用原材料の仕入価格高騰により、商品の価格を値上げしなくてはならない状況」(菓子・パン小売業)、「紙離れの影響と物流や人手不足等の関係か好調と思われる文具関係大手のグループ化が顕著。また、本離れの影響か本屋が文具の併売を強化しており出版会社大手が文具関係併合をしている。このため、仕入関係に値上げ等の影響が出ている」(飲食物品小売業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	±0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲7.1
3月	▲11.4	▲11.1	±0.0	▲26.0	±0.0
4月	▲12.8	△5.2	△7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲6.6
6月	▲21.1	±0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
見通し	▲18.3	▲5.0	▲7.6	▲43.4	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.4	▲ 11.2	▲ 16.9	▲ 19.7	▲ 43.6	▲ 38.0	△ 28.1	△ 22.5
建設	±0.0	△ 20.0	▲ 10.0	±0.0	▲ 35.0	▲ 40.0	△ 35.0	△ 35.0
製造	▲ 23.0	△ 7.6	▲ 7.6	±0.0	▲ 53.8	▲ 38.4	△ 30.7	△ 23.0
卸・小売	▲ 26.0	▲ 47.8	▲ 39.1	▲ 56.5	▲ 47.8	▲ 43.4	△ 17.3	△ 17.3
サービス	△ 20.0	▲ 13.3	±0.0	▲ 6.6	▲ 40.0	▲ 26.6	△ 33.3	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.1	▲ 18.3	▲ 4.2	▲ 4.2
建設	±0.0	▲ 5.0	△ 5.0	△ 15.0
製造	▲ 30.7	▲ 7.6	▲ 7.6	±0.0
卸・小売	▲ 39.1	▲ 43.4	▲ 21.7	▲ 26.0
サービス	▲ 13.3	▲ 6.6	△ 13.3	±0.0

平成30年6月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.1に対し、「CCI-LOBO」が▲15.4で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.4に対し、「CCI-LOBO」が▲10.1で柏の方がマイナス幅が1.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.9に対し、「CCI-LOBO」が▲15.0で柏の方がマイナス幅が1.9ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲43.6に対し、「CCI-LOBO」が▲42.2で柏の方がマイナス幅が1.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業であり、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△28.1に対し、「CCI-LOBO」が△21.7で柏の方がプラス幅が6.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.2に対し、「CCI-LOBO」が▲8.5で柏の方がマイナス幅が4.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業である。

【平成30年6月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	トピック	業種
建設	地震の不安が高まってきているようで問い合わせが増えてきた。	耐震	一般土木建築工事業
	売上高は変化ないが諸経費が上昇。先行きの見通しも悪く、直前になって受注が決まる。	経費増加 先行き不透明	電気工事業
	副資材関連の値上げが続いていたが、来月からは主材料、運賃も10～20%の値上げとなる。当然施工中現場は途中からの値上げとなるが、これから施工の受注現場についても単価の見直しはやってもええず採算の厳しい状態が続きそう。	経費増加 仕入高騰 採算悪化	その他の職別工事業
	6月で梅雨だった割には一般家庭の畳工事の受注が増加。リフォーム会社からの仕事は減少。	一般受注増加 会社受注減少	内装工事業
製造業	完全に仕事量が足りない。製造業の人手不足と言うのが信じられない位社内は落ち着いてしまっている。	受注減少	印刷業
	外注加工業者、購入品メーカーから部品価格の値上げ通達が相次いでおり機械現価に大きなインパクトを与えている。中には理由が明確にされておらず便乗と疑いたくなるような値上げもあり。	経費増加 便乗値上げ	その他の機械・同部品製造業
	中小企業にとって経済氷河期を乗り切るには益々実を縮小せざる負えない現況である。	経済氷河期	印刷業
卸小売	小売店は仕入控え気味の為、メーカーは在庫を抱えているよう。今後、夏物は値崩れすると思われる。	仕入減少 季節商品	婦人・子供服小売業
	柏駅周辺の大型店閉鎖のまま、書店も減っている。人の流れが中央から南に大きく変化。状況に合わせて店舗改装が効果あり。現状は人の流れに係わらず自社への要望に応じて悪化を防いでいる。人員減少もあるが、現在はこなしている。これから少しは良いが周辺の状況に好転があると苦しい。	そごうの影響 店舗改装 人手不足	時計・眼鏡・光学機械小売業
	採用を進めるが応募が少なく欠員が慢性化。店舗老朽化が激しく投資が増大。	人手不足 店舗老朽化	その他の各種商品小売業
	文具店業界の売上減は、アマゾン・アスクル等の通販やネット販売に起因するところが多いが、実店舗では100円ショップの大型化とドラッグストアの多店舗が目立つ。八方塞がりからの打開はやさしくない。	業界売上減少	書籍・文房具小売業
	夏季用原材料の仕入価格高騰により、商品の価格を値上げしなくてはならない状況に。	仕入高騰 価格転嫁	菓子・パン小売業
	今年の桜は例年よりも開花が早かった為、すべての果実が早く成熟している様子である。弊社商品の原料となる国産ブドウも、例年より開花が早かったが実になる数量が少なく、収穫量は前年ダウンになる予測である。農家さんは収穫量が減っても、良いブドウを作れば単価が上がり生計維持できるが、ワイナリーにとっては原料が上がったからといって、生産するワインを易々と値上げするわけにはいかない現状である。	原材料仕入減少 価格転嫁	食料・飲料卸売業
	バイト、パートがなかなか集まりません。販売員が不足。	人手不足	菓子・パン小売業
サービス業	全世界がトランプTwitterに振り回され警戒経済の中、大手企業の独壇場。やはり中小企業は原料コスト高、人件費高など受注多くも利益減多し。地銀の業績悪化が経済の悪化に連動しないこと希望。消費動向は高齢者はじめ若者も一般家庭も安物買いに走り、さほど伸びない。むしろインバウンド頼りの大手デパート、特殊店の伸び増、柏も外人がいかにか来るか早急対策必要か。飲食店もオンリーワン＜味＞＜接客マナー＞＜店内雰囲気＞を考えないと衰退化。行政とコロナ経済も一考。	利益減少 消費動向 インバウンド対策	投資顧問
	紙離れの影響と物流や人手不足等の関係か好調と思われる文具関係大手のグループ化が顕著。また、本離れの影響か本屋が文具の併売を強化しており出版会社大手が文具問屋併合をしている。このため、現在のところ大きな影響はないが、仕入関係に値上げ等の影響が出ている。天候が暑すぎ（不順）で来客が少ない。夕方に集中するので定時に閉店できない。	仕入高騰 天候の影響	その他の飲食品小売業
	標準貨物自動車運送約款が改正され「運賃」「積込料」「取卸料」「待機時間料」等、具体的に規定されて適正運賃收受の道筋はできたものの、荷主等に浸透せず時間がかかっている状況。	運送約款改正 適正運賃	一般貨物自動車運送業
	割安感のある物件は早期に売却となっています。全体的には売り物件が空家・相続物件の案件が増えています。価格はやや値上り気味です。	不動産好調 価格上昇	不動産管理業
	そごうが閉店して2年が経ちますが、無策で駅前の衰退などと言う輩が腹立たしい。他の商業ビルや商店は頑張っています。トップを替えねばダメ。	そごうの影響	不動産賃貸業

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成30年6月14日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が3724企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、緩やかな回復
基調続くも、足踏み。先行き
は横ばい圏内の動き

六月の全産業合計の業況DIは、▲15.4と、前月から▲1.8ポイントの悪化。原材料費や燃料費上昇による負担増を指摘する声が多く寄せられたほか、深刻な人手不足や消費者の節約志向、さらに、平年より早い梅雨入りの影響により、小売業、サービス業の業況感が悪化した。他方、好調な電子部品や産業用機械、自動車関連に加え、建設業も堅調に推移している。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足踏み状況がみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲13.3（今月比+2.1ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた夏の観光需要拡大、生産や設備投資の堅調な推移への期待感がうかが

える。他方、人手不足の影響の深刻化や、燃料費・原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、米国の保護主義的な関税措置の影響など世界経済・貿易に対する先行き不透明感を懸念する声も多く、中小企業の業況感は横ばい圏内で推移する見通し。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「設備投資等の民間工事が増加し、売上は改善。労働生産性の向上を図るため、社員教育の強化や新規設備の導入を検討している」（一般工事業、「貸家を中心とした住宅投資や、公共工事が減少していることに加え、鉄鋼を始めとする建設資材価格や、人件費等の上昇によ

り、売上・採算ともに悪化した」（管工事業）

【製造業】「堅調な輸出を背景に、取引先からの発注が増加している。さらなる需要増に対応するために、生産能力の増強を進めているが、深刻化する人手不足が足かせとなっている」（自動車部品製造業、「原材料の主要供給国である中国の環境規制が強化され、監査等で現地メーカーの工場稼働率が低下したことにより、原材料価格が高騰している。原油高も相まって、採算悪化となった」（化学製品製造業）

【卸売業】「販売先である製造業や建設業の業績が好調なため、売上・採算ともに改善した。だが、仕入先の人手不足が深刻化しており、それに伴う原材料の納入遅れがボトルネックとなりつつある」（電気機器等卸売業）、「消費者の節約志向から、卸先の発注量が減少し、売上悪化となったほか、人件費や運送費等の上昇により、採算も悪化した。新規顧客の獲得を急がねばならない」

（飲食料品卸売業）

【小売業】「化粧品や宝飾品を中心にインバウンド需要が好調なため、売上は改善。これを機に、非正規社員の時給を引き上げ、人手不足の解消を図る」（百貨店）、「パート・アルバイトの人件費や電気代等の上昇に加え、消費マインドの低迷から、同業他社との価格競争が激化し、採算悪化となった」（飲食料品小売業）

【サービス業】「平年より早い梅雨入りの影響に加え、消費者の節約志向が根強く、客数・客単価ともに落ち込んだ。大阪府北部で発生した地震の影響により、今後さらなる客数減が懸念される」（飲食業）、「業務用システムやウェブサイトの作成依頼が多く、売上は改善。収益増を従業員に還元するため、今夏の賞与を増額する」（ソフトウェア業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲14.4	▲13.6	▲5.1	▲12.2	▲25.2	▲16.1
2月	▲17.1	▲11.4	▲10.1	▲20.8	▲27.3	▲17.9
3月	▲15.8	▲13.5	▲6.1	▲18.8	▲26.9	▲16.3
4月	▲11.5	▲13.1	0.5	▲18.3	▲25.7	▲7.6
5月	▲13.6	▲14.8	▲5.8	▲19.4	▲26.5	▲7.6
6月	▲15.4	▲10.1	▲6.5	▲17.1	▲32.3	▲12.8
見通し	▲13.3	▲11.1	▲7.1	▲10.4	▲30.1	▲8.3

柏の景気情報

(6月の調査結果のポイント)

調査期間：平成30年6月28日～7月6日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数71件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲15.2	▲19.0	△20.0	▲47.6	± 0.0
2月	▲22.2	▲14.2	▲20.0	▲40.9	▲ 7.1
3月	▲11.4	▲11.1	± 0.0	▲26.0	± 0.0
4月	▲12.8	△ 5.2	△ 7.6	▲34.7	▲20.0
5月	▲ 9.8	▲15.7	△14.2	▲21.7	▲ 6.6
6月	▲21.1	± 0.0	▲30.7	▲39.1	▲13.3
見通し	▲18.3	▲ 5.0	▲ 7.6	▲43.4	▲ 6.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iは再び悪化。先行きも懸念材料が多く悪化の見通し

6月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲21.1(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が11.3ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同▲15.7)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲30.7(同△14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順

に、卸小売業▲39.1(同▲21.7)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「地震の不安が高まっているようで問い合わせが増加」「一般土木建築工事業」、「梅雨だった割に一般家庭の畳工事の受注が増加」「内装工事業」などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「中小企業にとって経済氷河期を乗り切るには、益々実を縮小せざる負えない現況」「印刷業」などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「小売店は仕入控え気味の為、メーカーは在庫を抱えているように。今後、夏物は値崩れすると思われる」「婦人・子供服小売業」、「柏駅周辺の大型店閉鎖のまま、書店も減っている。人の流れが中央から南に大きく変化。状況に合わせて店舗改装が効果あり。現状は人の流れに係わらず自社への要望に応じて悪化を防いでいる。人員減少もあるが、現在はこなしている」「時計・眼鏡・光学機械小売業」、「採用を進めるが応募が少なく欠員が慢性化。店舗老朽化が激しく投資が増大」「(各種商品小売業)、「すべての果実が早く成熟しており、弊社商品の原料となる国産ブドウも、例年より開花が早かったが実になる数量

が少なく、収穫量は前年ダウンになる。農家は収穫量が減っても、良いブドウを作れば単価が上がりが生計維持できるが、ワイナリーは原料が上がったからといって、生産するワインを易々と値上げするわけにはいかない現状」「(食料・飲料卸売業)、「天候が暑すぎ(不順)て来客が少ない。夕方に集中するので定時に閉店できなない」「(飲食料品小売業)、「バイト・パートがなかなか集まらず、販売員が不足」「菓子・パン小売業」などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「中小企業は原料コスト高・人件費高など受注多くも利益減少多し。消費動向は高齢者はじめ若者も一般家庭も安物買いに走り、さほど伸びない。むしろインバウンド頼りの大手デパート・特殊店の伸びが増加。柏も外国人がいかに来るか早急対策必要。飲食店はオンラインワンの味・接客マナー・店内雰囲気などを一考しないと衰退化」「(投資顧問)、「標準貨物自動車運送約款が改正され、運賃・積込料・取卸料・待機時間料等、具体的に規定されて適正運賃收受の道筋はできたものの、荷主等に浸透せず時間がかかっている状況」「(一般貨物自動車運送業)、「割安感のある物件は早期に売却となっている。全体的には売り物件

が空家・相続物件の案件が増えている。価格はやや値上がり気味」「(不動産管理業)、「ところが閉店して2年経つが、無策で駅前の衰退などと言う輩が腹立たしい。他の商業ビルや商店は頑張っている」「(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

六月の景気キーワード

◎受注減少・売上減少

各業種より、「リフォーム会社からの仕事が減少」「内装工事業」、「完全に仕事量が足りない。製造業の人手不足と言うのが信じられない位社内は落ち着いてしまっている」「印刷業」、「文具業界の売上減は、アマゾン・アスクル等の通販やネット販売に起因するところが多いが、実店舗では100円ショップの大型化とドラッグストアの多店舗が目立つ。八方塞がりからの打開はやさしくない」「(書籍・文房具小売業)との声が寄せられた。

◎経費増加

各業種より、「売上高は変化ないが諸経費が上昇。先行きの見通しも悪く、直前になつて受注が決まる」「(電気工事業)、「副資材関連の値上げが続いていたが、来月からは主材料・運賃も10～20%の値上げとなる。当然、施工中現場は途中からの値上げとなるが、これから施工の受注現場

場に関しても単価の見直しはやってもらえず採算の厳しい状態が続く」「(職別工事業)、「外注加工業者・購入品メーカーから部品価格の値上げ通達が相次いでおり、機械現価に大きなインパクトを与えている。中には理由が明確にされておらず便乗と疑いたくなるような値上げもあり」「(機械・同部品製造業)、「夏季用原材料の仕入価格高騰により、商品価格を値上げしなくてはならない」「菓子・パン小売業」、「紙離れの影響と物流や人手不足等の関係が好調と思われる文具関係大手のグループ化が顕著。また、本離れの影響が本屋が文具の併売を強化しており出版会社大手が文具問屋併合をしている。このため、仕入関係に値上げ等の影響が出ている」「(飲食料品小売業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(OCT-LOB)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲21.1に対し、「CCI」が▲15.4で「柏」の方がマイナス幅が5.7ポイント大きい。業種別では、「柏」の方が良い業種は、建設業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業・サービス業であり、製造業は10ポイント以上悪い。